

会期:2018年 11月8日(木)~27日(火)



協力：本の街神保町を元気にする会

「本と読者をつなぐー今、出版社のPR誌は こんなにおもしろい！」開催にあたって

我が国の出版社・書店のPR誌は、明治30（1897）年創刊の丸善『学燈』に始まります。『丸善外史』の著者で文学評論家・明治文化史研究家の木村毅は、明治40年の夏、小学生の頃に郷里の兵庫県で、ある雑誌に記された、「そんじょそらの文学専門雑誌よりずっと高度で読み度がある」という評判記に目をとめ、その存在を知ったそうです。創刊当初の誌名は『学の燈（まなびのともしび）』で、『学燈』を経て明治36年から現誌名に代わります。「燈（あぶみ）」には登竜門の意味があり、誌名にも丸善の気概を感じることができます。

次いで、博文館『日本図書月報』、東京堂『新刊図書雑誌月報』、三省堂『三省堂タイムス』、第一書房『伴侶』、春陽堂『学芸往来』、紀伊國屋書店『紀伊國屋月報』、岩波書店『図書』、創元社『創元』などが刊行されます。

戦中まで続いた雑誌は、昭和17（1942）年から18年にかけて、用紙不足など時局の要請に応え、廃刊若しくは休刊されますが、昭和24（1949）年に岩波書店『図書』が復刊され、やがて、郁文堂『BURUNNEN』、トーハン『新刊ニュース』、有斐閣『書斎の窓』、武蔵野書院『武蔵野文学』、みすず書房『みすず』、集英社『青春と読書』、新潮社『波』、世界思想社『世界思想』など現在に続くPR誌が陸続と出現します。

出版社・書店のPR誌は自社の新刊書や販売物の宣伝を目的とするものですが、新刊情報のみならず、書評あり小説あり作家のエッセイあり、さらには連載からたくさん話題作やベストセラーが生み出されるなど、小冊子ながら読み応え満載の刊行物です。何にもまして、その多くが書店の店頭で無料で入手できることが大きな魅力と言えるでしょう。

これらの中から約70誌の創刊号や最新号又は終刊号など、PR誌から生まれた話題作・ベストセラー12点、さらに、16誌の創刊及び廃刊の言葉を展示しました。また、資料として、『学燈』以来のPR誌一覧を作成しました。

本と読者をつなぐ媒体、コミュニケーションツールとしてのPR誌の面白さや、出版にかける各社の熱い思いを感じていただける機会になることを願っています。

本展示は、只今開講中の2018年度秋期明治大学リバティアカデミーと本の街・神保町を元気にする会共催のオープン講座「本と読者をつなぐー今、出版社のPR誌はこんなにおもしろい！」（本の街・神保町で考えるPart8）に合わせ、本の街・神保町を元気にする会の協力をいただいて開催するものです。

多くの方々、出版社・書店から、PR誌の刊行情報や資料の提供をいただきました。厚く御礼申し上げます。

明治大学図書館

本展示は、Ⅰ 出版社・書店等のPR誌、Ⅱ PR誌から生まれた話題作・ベストセラー、Ⅲ PR誌創刊及び終刊の言葉からなる。

Ⅰ 出版社・書店等のPR誌は、下に掲げるリストから、明治大学図書館が所蔵するPR誌を主に、一部を個人及び出版社から借用し、可能な限り、創刊号と最新号若しくは終刊号を展示した(展示リストは別紙)。なお、『学鑑』については、関連する図書を参考展示した。

Ⅱ PR誌から生まれた話題作・ベストセラーは、神保町内の出版社を中心に、当該図書と掲載PR誌の初回号(一部コピー)を展示した。

Ⅲ PR誌創刊及び終刊の言葉は、16誌について、それぞれの該当ページをそのまま拡大し、パネル展示した。

Ⅰ 出版社・書店等のPR誌

以下の一覧は、飯澤文夫編「出版社・書店等PR誌一覧」(『神保町が好きだ!』12 本の街・神保町を元気にする会 2018.10 p32-35)を補訂したものである。

概ね下記の条件をすべてを満たすものを採録した。

①出版社・書店(連合、団体を含む)の新刊情報・販売情報の発信を目的とし、②書評、エッセイ、文芸作品などを掲載して読み物としての要素を備え、③巻次又は年月次を追って継続刊行し、④定価の表示の有無にかかわらず書店などで無料(定期購読料が設定されている場合でも送料相当の金額)で入手できるもの。

しかし、PR誌の刊行形態は多様で、この条件を満たしていても発行元ではPR誌と位置付けていないものや、有料頒布し自社の新刊書評を殆ど載せていなくてもPR誌としているものなど、書物誌、文芸誌、一般誌などとの区別がつけがたいものも少なくない。この一覧にはそうした雑誌のを含んでいることや、遺漏も少なからずあるものと思われる。不備や遺漏をお気づきの際には、ご教示いただければ幸いである。

近年はweb版の台頭が目覚ましい。紙媒体と電子媒体の併存に始まり、web版のみへの移行、さらには、従来のPR誌の概念を超え、新たにwebマガジンとして立ち上げられるケースも多い。末尾にスペースの許す限りリストアップした。

凡例

1 改題された雑誌で巻号を継承している場合は、創刊年月のもとに最終又は現行誌名によって位置づけた。但し、分割刊行や発行元変更など複雑な経緯があるものは、それぞれに記録した。

2 副誌名、刊行頻度は原則として創刊号にによるが、その後、変更されているものも少なくない。

3 誌名後の+[web]は紙媒体と電子媒体併存のもの。

4 編集方針は、創刊のことは、ホームページでの紹介、『雑誌新聞総かたろぐ』2018年版(メディア・リサーチ・センター)等から摘記した。継続中のものについては、同書により発行部数を< >で付記した。

5 創刊年月及び終刊年月末の?は推定、終刊年月無記入は刊行状態不明。

出版社・書店等	誌名	編集方針、変遷、ほか < 発行部数 >	創刊年月	終刊年月	刊行 頻度
丸善	学鑑	創刊時は『学の燈(まなびのともしび)』、1902.1に『学燈』、1903.1から現誌名。1943年12月に休刊、1951年1再刊。現在は季刊。日本の文化に寄与し、世界の文化受容の窓口となる。社会や時代を映す鏡< 10,000 >	1897.3	継続中	月
博文館	日本図書月報		1897.8		月
博文館	図書世界	後に図書世界社発行、博文館発売	1901.7		月
宝文館	新学海：宝文館図書月報		1914?		
東京堂	新刊図書雑誌月報	書目、内容紹介、質疑応答欄など。以後『東京堂月報』に改題	1914	1926	月
三省堂	三省堂タイムス	普く世の研究者に配付、新刊書の紹介を迅速正確にし、出版界の円滑を計り、学界のために側面から尽くし、書肆としての使命と責務を果たす	1921.3	1925.10	月3
研究社	研究社月報		1923.12?		月
聚芳閣	聚芳閣出版月報		1924?		
紅玉堂書店	書燈		1926.1?		月
東京堂	東京堂月報	『新刊図書雑誌月報』の改題、巻号を継承、迅速な新刊情報提供のため、小売り向けに内容を改める。1932から再び読者向けに変更	1927.1	1941.10	月2
第一書房	第一書房月報	月々の新刊の紹介、著者の外貌や消息を読者に伝え、不断の温かい連鎖を以て読者との間を緊密に保ちたい	1929.11		

東京堂	東京堂小売部新刊案内	小売り向けとなった『東京堂月報』を補い、一般読者向けに発行	1929.4	1932.4	月
白水社	白水		1930?		月
第一書房	伴侶	以後、総合雑誌『セルパン』に移行	1930.1	1931.3	月
春陽堂	学芸往来		1930.4		
書物春秋会	書物春秋	東京市神田区内の古書店。東條書店、稲垣書店、光明堂、東陽堂、大雲堂、原広書店、十字屋、朝倉屋、明治堂、松村書店	1930.10	1935.2?	
紀伊國屋書店	紀伊國屋月報	購読者及び一般読者の便宜と相互間の親密を図る	1931.2		月
三省堂書店	エコー	文学、世相、ファッションなどの軽い読み物	1931.6	1940	月
満州文化協会	満州文化協会出版月報：露亜・満蒙・図書		1932?		
小学館	出版月報書架		1932	1942	月
鉄塔書院	鉄塔	記事の清新、問題の提出、解決を望み、それを果たしてゆく	1932.10	1933.10	月
江川書房	限定出版江川書房月報	以後『限定出版江川書房・四季社月報』に改題	1932.2	1933?	月
東京堂	旬刊新刊案内	新刊書の迅速で正確な報知、雑誌の創刊、発禁、予約物の案内	1932.5	1933.12	月3
芝書店	芝書店月報		1932.9?		
芝書店	龍：図書案内		1933?	1935?	
竹村書房	新刊月報 竹村書房	後に『篋新刊月報』に改題	1933?		月
江川書房、四季社	限定出版江川書房・四季社月報	『限定出版江川書房月報』の改題、巻号継承	1933.5	1933.7	月
小山書店	秋[とき]：季刊・小山書店だより		1933.10		季刊
岡倉書房	読書趣味		1933.10		
江川書房、四季社	小冊子		1933.11		
三笠書房	三笠書房便書		1933.12?		
鶴社	鶴社便		1934.4	1934.6	
共立出版	蟻塔		1934.10		
岡倉書房	蒐集手帖		1935?		
三笠書房	アラベスク		1935?		月
双雅房	窓		1935?		
野田書房	手帖		1935.5		月
沙羅書店	沙羅		1935.6		
書物展望社	紙ないふ：新版だより		1935.7		
昭森社	木香通信		1936.1		
岩波書店	図書	『岩波月報』として創刊、1938.8に改題	1936.2	1942.12	
砂子屋書房	文筆 第一次	以後、文芸雑誌『文学生活』に吸収	1936.8	1936.10	
三省堂	書斎		1937	1943.1	月
砂子屋書房	文筆 第二次		1937.10		月
赤塚書房	栗		1937.7		
青木書店	碧樹：青木書店月報		1939.10		
創元社	創元	終刊号編集後記に、以後、日本出版文化協会『読書並に出版に関する月報』に吸収とある	1940.1	1942.12	月
小学館	出版月報書園		1942頃		月
九州書房	九州書房月報		1946.4		
出版梓会	出版ダイジェスト	明石書店、あかね書房、明日香出版社ら専門書出版を中心とする111社	1949	2011.10	旬刊
評論社	ばれるが Π α ρ ε ρ γ α	パレルガはギリシャ語で付録の意。当初はパンフレット形式、1965年から雑誌形式	1949	1979.12	月
三笠書房	小鹿：三笠書房月報		1949?		
創元社	創元		1949		月
岩波書店	図書 復刊	魅力的な本との出会いの場、読書の新しい愉しみの発見の場。読書家の雑誌。出版活動の最新情報をいの一冊に届ける「読者と岩波書店を結ぶホットライン」 <150,000>	1949.11	継続中	月
甲鳥書林	甲鳥月報		1950年代		月
日本出版販売	日販通信		1950	継続中	月

紀伊國屋書店	机 TSUKUE	『紀伊國屋月報 復刊』として創刊、1952.1に改題	1950.1	1960.12	月
BOOKSの会	BOOKS：十二社出版だより	出版企画や重版を予め公表し、書物の選定購入に関する読者の便宜の増進を目的とし、小売店との固い連携を通じて読者との不断の交流を実現する。発足時は岩波書店、小山書店、弘文堂、世界評論社、創元社、ダイヤモンド社、筑摩書房、東洋経済新報社、日本評論社、白水社、有斐閣。後に、音楽之友社、平凡社、美術出版社、光文社、河出書房新社、講談社、共栄堂が加わる	1950.3	1963.11	月
郁文堂	BRUNNEN	ドイツ語学・文学研究者の「サロン」<3,000>	1950.7	継続中	隔月
トーハン	新刊ニュース		1950.10	継続中	月
岩波書店	文庫	長野県限定発行	1951.3	1951.8	月
岩波書店	文庫	以後、『図書』に吸収	1951.10	1960.12	月
中央公論社	書店はんじょう 復刊	書店向けPR誌。戦前の刊行状況不明	1952.1	1974.2	月
南雲堂	不死鳥	『不死鳥通信』として創刊、1969.6に改題。英語・英文学教員とのコミュニケーションの場	1953		年4
有斐閣	書齋の窓 +[web]	著者と読者を結ぶ場。大学人・読書人のための雑誌。知的な情報と興味深い読み物を提供 <30,000>	1953.6	継続中	隔月
研究社	英語と英文学：研究社月報	『研究社月報 復刊』として創刊、1956.4に改題	1954.10	1964.3	
ナウカ	ナウカの窓	創刊時は『H a y k a の窓』。ソ連・ロシアについての紹介、研究	1955	1968.12	月
武蔵野書院	武蔵野文学		1955.2	継続中	
共立出版社	蟻塔：科学と随想：共立出版ニュース 復刊	読者とのつながりをより親密にしたい	1955.11	1996	月
日刊工業新聞社	はぐるま	読者と直結する窓口	1957	1992.8	月
キリスト教出版会	興文：キリスト教図書雑誌	書物の衣をまとったものの中から、真の書物を選び、大衆に示して、選択を容易にする、「書物の書物」(Bibios biblwn)。以後『本のひろば』に改題	1957.6	1975.3	月
日本出版販売	新刊展望		1957.9	2017.1	月
三一書房	月刊さんいち	社会の発展の中核となる人々に、自分たちの仕事を連絡し、知ってもらう	1958.11	1962.1	月
みすず書房	みすず	自社の出版物のシンボリック的存在。読者と著者と出版社を結ぶ敷居の低いやさやかなアリーナ <6,500>	1959.4	継続中	月
春秋社	春秋	思想、宗教を中心に人文・社会科学の論稿を収める教養誌 <10,000>	1959.6	2018.5	月
悠々会	風景	紀伊國屋書店ら首都圏の主要書店25法人	1960.10	1976.4	月
オーム社	OHM BULLETIN		1960	2012	季刊
同学社	Latrne ラテルネ		1960.4		
朝日新聞社	朝日出版通信		1961.3	1973.1	隔月
福音館書店	絵本の与えかた	絵本のすすめ	1962		不定
続群書類聚完成会	ぐんしょ		1962.1	1965.12	月
創文社	創文	月刊誌として1-537(2010.12)に終刊。2011.5から季刊誌として再刊	1962.8	2016.10	季刊
平凡社	月刊百科	『国民百科』として創刊、1967.10に改題。『世界大百科事典』の補充。読者と平凡社をつなぐかけ橋	1962.9	2011.6	月
美術出版社	月報美	以後『季刊美』に移行	1964	1968	月
ダイヤモンド社	価値ある情報	「エグゼクティブ」として創刊、1973.1に改題。ビジネスマン向けにビジネスの情報と知識のエッセンスを提供	1964.7	1984.3	月
山と溪谷社	窓：山と溪谷社刊行図書目録		1965.1	1975.8	半年
研究社出版	ぶっくまん	『英語と英文学 復刊』として創刊、1971.9に改題	1965.8	1972.5	月

集英社	青春と読書：本の数だけ、人生がある。－集英社の読書情報誌	<27,333>	1966	継続中	月
さ・え・ら書房	さ・え・ら	自社の出版企画と不即不離の立場で役に立つ記事、楽しい読み物	1966.5	1981.3	月
ギャラリー 吾八	これくしょん	古書店	1966.7	1986.11	季刊
新潮社	波 +[web]	『Catalogue』の改題。読書界・文学界の最新の「波」を読者に紹介。創刊当初は副誌名に「新潮社新刊案内」	1967.1	継続中	月
龍星社	げらずりぐさ 復刊	戦前は月報	1967.5	1974.10?	半年
世界思想社	世界思想 +[web]		1967.6	継続中	年刊
有精堂出版	古典と近代文学	古典から近代文学の国語・国文学研究、国語教育の専門論文を収録	1967.10	1975.5	半年
あかね書房	アルピニスト		1967.11	1971.10	年4
有隣堂書店	有隣 +[web]		1967.12	継続中	隔月
あかね書房	小さな図書館	子どもにいい本を提供するための意見交流の小さな広場	1967.12	1976	
御茶の水書房	社会科学の方法		1968.1	1983.12	月
未来社	未来	<15,000>	1968.5	継続中	季刊
筑摩書房	ちくま +[web]	読者との交流を密にするため。本好きのための好伴侶。1978.8休刊、1980.7復刊	1969.5	継続中	月
音楽之友社	音楽の窓	誰にでも親しめる音楽教養誌	1969.11	1982.2	月
協同出版	きょうどう		1970年代		季刊
新教出版社	新教		1971	1981	季刊
青木書店	あおき		1971	1974?	
三省堂書店	未踏	当初は学区図書館向け、1976.4より一般向けに「PR誌らしくないPR誌」をめざして再出発	1971.1	1983.8	年6
東洋経済新報社	書窓	出版社と読者をつなぐかけ橋。情報化社会における読書の選択に役立てたい	1971.8	1978.10	不定
笠間書院	Report Kasama リポート笠間		1971.10	継続中	年3
光風社書店	周辺	歌人土岐善麿を中心とした短歌文芸誌	1972.2	1980.11	月
龍溪書舎	龍溪	創刊時は『龍溪ニュース』	1972.2	1980.4	月
ナウカ	窓	研究者と出版社、研究者相互間の情報交換の場	1972.7		季刊
東京大学出版会	UP UNIVERSITY PRESS	<20,000>	1972.11	継続中	月
日本実業出版社	エスカルゴ通信	書店向けPR誌 <4,000>	1973.4	継続中	月
人文会	人文会ニュース jinbunkai news +[web]	地味な人文書の普及。大月書店、御茶の水書房、紀伊國屋書店など人文科学書出版社20社 <5,000>	1973.6	継続中	年3
歴史書懇話会	歴史書通信 +[web]	明石書店、校倉書房、思文閣出版、東京堂出版、刀水書房、同成社、塙書房、法蔵館、ミネルヴァ書房、山川出版社、吉川弘文館、11社 <15,000>	1973.6	継続中	隔月
キリスト教文書センター	本のひろば：[月刊]キリスト教書評誌 +[web]	『興文』の改題。キリスト教新刊書の批評と紹介 <14,000>	1975.4	継続中	月
東方書店	東方	<4,000>	1975.9	継続中	月
三省堂	三省堂ぶつくれっと	読者との交流を深める	1975.9	2002.3	隔月
日本児童図書出版協会	こどもの本：新刊情報	子どもの本の作り手からの情報発信。あかね書房、あすなろ書房、アリス館、岩崎書店など39社 <5,000>	1975.10	継続中	月
編集工房ノア	海鳴り		1975.12	継続中	季刊
講談社	本：読書人の雑誌	<19,000>	1976.4	継続中	月
地方・小出版流通センター	アクセス：地方小出版情報誌 +[web]		1976.8	継続中	月
名著普及会	名著通信		1976.10	1978.12	月
日本経済評論社	評論 +[web]	『日本経済評論社月報』として創刊。読者の心の広場 <20,000>	1976.12	継続中	
岩崎学術出版社	学術通信	<6,000>	1977.2	継続中	季刊
東海大学出版	かがくさろん	創刊時は『科学サロン』、季刊、1987に改題	1977.5	1989.10	隔月
小学館	本の窓：いつでもどこでも本の世界が豊かに広がる	読書こそ人生という活字中毒者向け <20,720>	1978.2	継続中	月
同朋舎	同朋		1978.7	1991.5	月

丸善ジュンク堂	書標：ほんのしるべ +[web]	読書案内 <8,000>	1978.10	継続中	月
青裳堂書店	書誌学月報		1979.1	継続中	
和泉書院	いずみ通信 +[web]		1980.6	継続中	年
雄松堂書店	Pinus	自社の本をより深く知ってもらうため。以後『ピットネス』に移行	1981.6	1999	半年
歴史春秋社	歴春かわら版		1981.8	1985?	
郷土出版社	郷土出版社通信		1982.1	廃刊	
書肆風の薔薇	風の薔薇		1982.春	1991.秋	季刊
汲古書院	汲古	古典研究会編 <13,000>	1982.5	継続中	半年
地湧社	湧 ゆう	読者と著者を結んでこの湧きたての水(出版活動の消息)を届ける	1983.1	2014.1	隔月
新評論	新評論 +[web]		1983.4	継続中	
不二出版	本郷だより		1983.4	1997.4?	
影書房	影通信		1983.8	1988?	不定
内山書店	鄔其山 UCHIYAMA	中国関係書籍の見識ある書評誌。以後『中国図書』に合併	1983.9	1988	季刊
紀伊國屋書店	しおり：紀伊國屋カード通信		1984	1992.2	隔月
誠信書房	誠信レビュー		1984	2015.1	半年
花曜社	花曜		1984	1985.8	季刊
大学出版部協会	大学出版：大学と社会を結ぶ 知のネットワーク +[web]	北海道大学出版会、弘前大学出版会、東北大学出版会、流通経済大学出版会、聖徳大学出版会など30社	1986.5	継続中	季刊
ふらんす堂	ふらんす堂通信	ふらんす堂友の会会報 <4,000>	1987.8	継続中	季刊
こだわり出版センター	ほん・コミュニケート	本の産直運動	1987.8	2003.3	月
名著普及会	名著サブリメント		1988.1	1991.12?	月
福武書店	子どもの本通信：読者と著者・編集部をむすぶ機関誌		1988.4	1992.6	季刊
続群書類聚刊行会	ぐんしょ 再刊		1988.7	2006.春	
内山書店	中国図書		1989.1	2012.12	月
藤原書店	機	アナール派などの紹介を通じて歴史＝思想を問い直す <20,000>	1990.4	継続中	月
白地社	出版月報		1990.7	1992.11?	季刊
同学社	TONGXUE トンシュエ	大学・短大中国語教師向け <2,500>	1991.1	継続中	年2
思文閣出版	鴨東通信 +[web]	<12,000>	1991.2	継続中	年2
紀伊国屋書店	I feel アイ・フィール：心の豊かさを求める時代の情報マガジン		1991.3	2006.春	季刊
柏書房	リベルス Libellus：学知探検雑誌	小さいながらも刊行し続けることで意味のある記録、「学び知る」行為をワクワクと「探検」するような気持ちで行えるような媒体	1991.9	1994.12	隔月
小沢書店	Poetica：小沢書店月報	著者と読者、書店との交流を育む濃密な空間	1991.9	1993.3?	隔月
影書房	影書房通信	書物の造り手、書き手、読み手の三者をつなぐネットワークづくり	1993.12	2017.10	季刊
岩波書店	やかましネットワーク +[web]	児童書案内	1994.4	継続中	年2
徳間書店	子どもの本だより		1994.5	継続中	隔月
吉川弘文館	本郷	読者と書店と自社を結ぶネットワーク <20,000>	1995.1	継続中	隔月
アジアの本の会	アジアへのとびら	『アジアの本の会全点リスト』として創刊。明石書店、亜紀書房、かもがわ出版、現代書館、高文研、コモンズ、春秋社、新評論、筑波書房、東京大学出版会、東方出版、梨の木社、めこん	1995.4	継続中	年刊
こぶし書房	場 UTPADA		1995.4		
文藝春秋	本の話		1995.7	2011.10	月
KADOKAWA	本の旅人	読者との架け橋 <18,710>	1995.11	継続中	月
朝日新聞社	一冊の本		1996.4	継続中	月
東北大学出版会	宙 おおぞら：東北大学出版会会報		1997.3		年
岩田書院	地方史情報 +[web]	地方史雑誌の目次を収載する出版情報誌 <13,000>	1997.6	継続中	年4
マツノ書店	マツノ通信：山口県史料		1998?		

幻冬舎	ポンツーン = Pontoon : 幻冬舎の月刊PR小説誌	2016.9から[web]版	1998	2016.8	月
幻冬舎	星星峡		1998.2	2013.11	月
大空社	大空		1998.4	1998.12?	
山崎書店	草の根：本と美術のたより		1999	継続中	年2
刀水書房	刀水	休刊中	1999.1	2008.7	
草思社	草思	現在の知的状況への批評となり、われわれが生きていくための新たな知の発見をうながしたい。新しい書き手の登場をもとめ、新しいテーマを掘り起こす	1999.4	2006.8	月
金沢文圃閣	文献継承 +[web]	書誌・情報学からの提案・ノート・随想等 <1,500>	1999.7	継続中	
春風社	春風倶楽部		2000夏	2007春	
港の人	港のひと +[web]		2001.5	継続中	不定
ダイヤモンド社	経 kei		2001.11	継続中	月
トランスビュー	TRANVIEW		2001.8	2005.10	
朝倉書店	あさくら：編集者が語る新刊紹介	担当者の喜び苦しみ、読者にこんなふうに読んでもらいたいという率直な声 <4,000>	2002	継続中	年
マガジンハウス	ウフ. Oeuf	読んで美味しいリトルマガジン	2002.7		月
アクセス・パブリッシング	生本 NAMABON	新規書下ろしの作品を読者に提案する”生きている本”	2002.11		月
スタジオジブリ	熱風：スタジオジブリの好奇心	情報過多な社会、ともすれば判断をまちがえそうな世の中で、暗い気持ちを払拭し正気を失わない方法を会得する一助に	2003.1	継続中	月
古書ほうろう	モクローくん通信		2003.1	2006.9	
歴史春秋社	歴春通信		2003.2	2008.4?	月
関西学院大学出版会	理 コトワリ		2003.5		
批評社	Niche +[web]		2003.12	継続中	
みやび出版	myb：みやび		2004.11	継続中	半年
アートン	あとん		2004.12	2008.2	月
之潮	Collegio コレジオ	現在は季刊	2005.8	継続中	月
PHP文庫	文蔵 +[web]	心ゆさぶる「小説&エッセイ」満載の月刊文庫	2005.10		月
水声社	水声通信		2005.11	2011.8	
毎日新聞社	本の時間 MONTHLY BOOK TIME	PR文芸誌。母が子に「さあ、本を読む時間ですよ」というニュアンス、また、本に流れる物語の時間	2006.5	2013.9	
アспект	アспект		2006.7		隔月
光文社	本が好き！		2006.7	2010.1	月
育鵬社	虹 +[web]	創刊時は扶桑社、『虹：扶桑社通信』。最新の教育界動向、教科書に対する会社の考え方、推薦図書等の紹介	2006.7	継続中	
紀伊国屋書店	Scripta スクリプタ +[web]	言葉は去りゆくが、書かれたものは残る <15,000>	2006.10	継続中	季刊
ポプラ社	asta* アスタ：あしたはどんな本を読もうかな：ストーリー&エッセイマガジン		2006.10	継続中	月
アクセスパブリッシング	Colo コロ：脳と心の栄養補給マガジン +[web]	雑誌、携帯、PCどこからでもアクセスできる総合メディア。読者と一緒に成長する	2007.7	2008.12	月
徳間書店	本とも	友だち感覚で本とつき合っていけたら、本を通じて誰かと友だちになれたらとの想い	2007.7	2011.9	月
春風社	春風目録新聞	出版目録『学問人』と合体。社の最新動向がわかるような有益かつ喜んでもらえるものに	2007.10	継続中	年2
角川春樹事務所	ランティエ		2008.9	継続中	月
東京外国語大学出版会・附属図書館	pieria ピエリア +[web]		2009	継続中	
大修館書店	辞書のほん		2010	2015.冬	季刊
武蔵野書院	武蔵野文学Wide：武蔵野書院の新刊ご案内		2010.9		

ミネルヴァ書房	ミネルヴァ通信「究」 KIWAMERU	人文・社会科学などの垣根を越え本格的な読書人のための道しるべ <4,000>	2011.4	継続中	月
徳間書店	読楽 DOKURAKU：「読む」を楽しむ総合エンタテインメント文芸誌		2012.1	継続中	月
東京大学出版会、白水社、みすず書房	Publisher's Review パブリッシャーズ・レビュー +[web]	出版情報紙。各社版を発行	2012.冬	継続中	
大日本印刷	honto+ ホントプラス：書店 通販電子書籍のハイブリッド型総合書店 honto official magazine +[web]		2013.7?	継続中	月
ナダ出版センター	鳴海文庫：文学・社会・書誌	文化の発信は人々の交流の中から生まれる	2015.5	継続中	

【WEBマガジン、メールマガジン】

					更新頻度
講談社	ウェブMouRa(もうら)	2005.3「web現代」からリニューアル	1999.10	継続中	
皓星社	皓星社通信		2000.8	閉鎖	
福音館書店	あのねメール通信		2001.12	継続中	月
アспект	アспект		2005.2	継続中	
草思	web草思		2006.9?	2007.12	
NTT出版	Webnttpub.	本・情報・自由の先端をつなぐ	2007	継続中	
平凡社	ウェブ平凡		2008.1	継続中	
NHK出版	NHK出版WEBマガジン	NHK出版が刊行する 文芸書・ドラマ関連書籍を紹介するサイト	2008.4	継続中	月2
文生書院	文生だより：文生書院メールマガジン		2010.7	継続中	月2
廣済堂出版	廣済堂よみものWeb：小さな時間の大きな物語	2008.11開設の無料オンラインサイト「読んどこ！」をリニューアル	2010.12	継続中	
文藝春秋	本の話		2011.10	2017.1	
幻冬舎	幻冬舎plus	WEBマガジンと、幻冬舎の電子書籍が購入できる電子書店が融合したWEBサイト	2013.11	継続中	
日本の古本屋	日本の古本屋メールマガジン		2014.1	継続中	
祥伝社	コフレ	小箱の中にたくさんの物語がつまっているイメージ	2014.8	継続中	月2
ポプラ社	ウェブasta*	「ポプラビーチ」からリニューアル。チャレンジングな企画や、鮮度の高い情報を中心にお届けする媒体	2015.2	継続中	
誠文堂新光社	YOMIMONO.com：よみものどっこい	通勤やスキマ時間を充実させる読み物を、無料で、手軽に	2016.7	継続中	
幻冬舎	ポンツーン = Pontoon：幻冬舎の月刊PR小説誌		2016.9	継続中	
文藝春秋	文春オンライン		2017.1	継続中	
春秋社	web春秋 はるとあき		2018.6	継続中	

【『学燈』関係参考展示】

丸善外史 木村毅著(丸善, 1969.2)
丸善百年史ー日本近代化のあゆみと共に 上巻, 資料編(丸善, 1980.9-1981.12)
「学燈」編集の思い出 本庄桂輔著(白鳳社, 1985.6)
「学燈」を読む [正], 続 紅野敏郎著(雄松堂出版, 2009.1-2009.10)
漱石と「学燈」 小山慶太編著; 夏目金之助 [ほか] 著(丸善出版, 2017.1)

Ⅱ PR誌から生まれた話題作・ベストセラー

出版社	誌名	連載開始	出版年	著者	書名
新潮社	波	1978.1	1981.3	井上ひさし	私家版 日本語文法
日本経済評論社	評論	1986.7	2012.10	栗原哲也	神保町の窓から
集英社	青春と読書	1989.8	1991.3	さくらももこ	もものかんづめ
講談社	本	1996.1	2003.9	原武史	鉄道ひとつばなし(講談社現代新書)
岩波書店	図書	2004.1	2006.6	佐藤正午	小説の読み書き(岩波新書)
KADOKAWA	本の旅人	2009.3	2012.6	山本兼一	信長死すべし
幻冬舎	星星峡	2009.4	2016.9	恩田陸	蜜蜂と遠雷 *第156回直木賞、本屋大賞
	ボンツーン	2014.1			
筑摩書房	ちくま	2010.7	2017.2	鹿島茂	神田神保町書肆街考
小学館	本の窓	2010.11	2013.7	菅原文太	ほとんど人力 菅原文太と免許皆伝の達人たち
有斐閣	書斎の窓	2015.7	2018.11	岸政彦、ほか	社会学はどこからきてどこへ行くのか

【webマガジン】

平凡社	ウェブ平凡	2011.5	2012.5	こうの史代	ぼおるぺん古事記 1～3巻
祥伝社	コフレ	2014.9	2017.10	鹿島茂	最強の女

Ⅲ PR誌創刊及び終刊の言葉

出版社	誌名	掲載年	タイトル
丸善	学の燈	1897.3	学の燈 発刊の辞
三省堂	三省堂タイムス	1921.3	発刊の辞
鉄塔書院	鉄塔	1932.10	鉄塔の窓
岩波書店	図書	1942.12	読者への葉書通信 *廃刊に当って
創元社	創元	1942.12	後記 *廃刊に当って
BOOKSの会	BOOKS	1950.3	[創刊の辞]
有斐閣	書斎の窓	1953.6	発刊にあたって
共立出版社	蟻塔	1955.10	『蟻塔』復刊にあたって
みすず書房	みすず	1959.4	編集後記 T・O生 *創刊に当って
雄松堂	PINUS	1981.6	愛される本をまごころこめて 新田満夫 *創刊の辞
世界思想社	世界思想	1967.6	創刊のことば 世界思想社社主 高島国男
柏書房	リベルス	1991.9	編集後記 S *創刊に当って
角川書店	本の旅人	1995.10	「本の旅人」創刊にあたって 角川書店社長 角川歴彦
草思社	草思	1999.5	発刊にさいして 編集長 木谷東男
ミネルバ書房	ミネルバ通信「究」	2011.4	創刊のことば ミネルバ書房社長 杉田啓三
春秋社	春秋	2018.5	「春秋」休刊のお知らせ 春秋社

参考資料

出版社のPR誌 意欲的な編集「みすず」(プリズム) 安田武 『朝日新聞』 1965.8.1 p18
PR誌のすすめ 商売離れた好企画 加藤秀俊 『朝日新聞』 1969.3.27 p23
出版社のPR誌 谷沢永一 『読売新聞』大阪版 1969.4.4夕刊 谷沢永一『署名のある紙礫—私の書物随筆』 浪速書林 1974.11 p16-17 に再録
出版社のPR誌について [上] / 下 堀江真喜夫 『日本古書通信』 34(5)通301 1969.5 p.3-5 / 34(6)通302 1969.6 p13
PR誌について 竹内好 『ちくま』2(6) 1969.6 p17-19
PR誌拝見 1-30 『図書新聞』 1971.11.6 p12 / 1972.6.10 p8
味のあるPR雑誌 名随筆や論文が多い 一冊にまとめ月刊にしては 田所太郎 『毎日新聞』 1973.1.22 p9
出版PR誌一覧 『日本読書新聞』 1973.4.30 p2
出版社PR誌の魅力 作家も素顔見せる にじみ出る各社の性格 『朝日新聞』 1974.2.18 p9
宣伝をしないPR誌 値段の割に内容充実 対談・旅行記ありエッセーも(家庭) 『朝日新聞』 1976.10.20 p15
PR誌に趣向こらす出版社(しおり) 『朝日新聞』 1977.6.27 p10
もう一つの読み物 出版PR誌 宣伝臭さを避ける 論文や対談幅広い内容 『朝日新聞』 1979.10.21 p13
読みごたえある出版社のPR誌 宣伝超えた豊富さ(ぶっくす) 『朝日新聞』 1987.11.29 p34
PR誌探索 上 / 下 大屋幸世 『日本古書通信』 53(11)通712 1988.11 p.2-4 / 53(12)通713 1988.12 p2-6
タダのPR誌なぜ定価がついているのか 郵送料安い第三種郵便物の「義務」 有料の定期購読も出版社は”出血”(根ほり葉ほり) 貴 『朝日新聞』 1989.1.26 p16
出版社のPR誌に新顔登場 文芸春秋が「本の話」創刊(話題) 『朝日新聞』 1995.7.9 p11
PR誌は出版社のステイタス・シンボル 島森路子、三浦雅士、丸谷才一 『東京人』11(1) 1996.1 p94-102
本のPR誌、創刊続々と(本・流) 帆 『朝日新聞』 1996.5.26 p13
新聞・雑誌目録 中川孝収集実篤文庫目録(県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録9) 1998.4 p443-536
本のPR誌を読む 坪内祐三 『週刊朝日』103(29) 1998.7.3 p140
本のPR誌どう読むか 総合誌うたう新顔も登場(動向傾向) 長澤美津子 『朝日新聞』 1999.3.28 p13
内容豊かな本のPR誌(メディア最前線) 鈴木カオル 『潮』488 1999.10 p292-293
出版PR誌を探せ! 亀和田武・坪内祐三対談 『彷徨月刊』19(7)通214 「特集PR誌の向こう側」 2003.6 p2-9
書籍等取次業のPR誌「図書・雑誌月報」(日本近代文学小資料 21) 『日本古書通信』73(3) 通944 2008.3 p20-21
特集 PR誌・フリーペーパーをつくらうよ 『日販通信』871 p10-34
出版文化 休刊相次ぐ出版社PR誌(ブック・ストリート) 佐久間文子 『出版ニュース』 2329 2013.11.下旬 p13
出版・書評・印刷関係雑誌(東京マガジンバンク『知っていると便利』16) 都立多摩図書館 2015.2
<http://www.library.metro.tokyo.jp/Portals/0/images/pages/reference/tama/magazinebank/pdf/syuppan201502.pdf> 2018.2.9閲覧
出版PR誌がない! 大澤聡 『図書』800 2015.10 p23-25
出版PR誌一覧 『Wikipedia』「PR誌」最終更新 2018.1.20 12:05 2018.2.1閲覧
出版社PR誌とは 『公益社団法人全国出版協会』HP「出版科学研究所 コラム」 <http://www.ajpea.or.jp/rip/index.html> 2018.2.1閲覧
出版・読書・図書館 / 出版情報・書評 『新聞雑誌総かたろぐ』2018年版 メディア・リサーチ・センター 2018.5 p116-132 ほかに各年版
特集:いま、出版社のPR誌はこんなにおもしろい! 『神保町が好きだ!』2018 2018.10 p1-35
ほかに、『中公論社の八十年』(1965.10)、『丸善百年史』(1980.9-1981.12)、『三省堂書店百年史』(1981.8)など、各社社史類

協力者・協力機関(敬称略)

浅岡邦雄(元中京大学)、大森一彦(元東北工業大学附属図書館)、菅野俊之(元福島県立図書館)、清田義昭(出版ニュース社)、田川浩之(金沢文圃閣)、樽見博(日本古書通信社)、野上暁(児童文学・文化評論家)、蛇口健一(フリーライター)、故森雅夫(三省堂書店)、三好由珠(同)、八木壯一(八木書店)。
岩田書院、岩波書店、金沢文圃閣、之潮、三省堂書店、集英社、春秋社、春風社、小学館、筑摩書房、中央公論新社、東京堂書店、平凡社、日本経済評論社、日本古書通信社、有斐閣。
このほか、多くの出版社・書店から電話及びメールでの問い合わせにご回答いただいた。

ポスター及びチラシ(本冊子表紙)のデザインは野上暁氏によるものである。



本と読者をつなぐ—
今、出版社の PR 誌はこんなにおもしろい！
(第 80 回 明治大学中央図書館ギャラリー展示)

編 集 : 中央図書館ギャラリーワーキンググループ
リスト作成協力 : 飯澤文夫 (明治大学史研究調査員)
発 行 : 明治大学中央図書館
発行日 : 2018 年 11 月 8 日